

北海道学力向上推進事業における 講演会を実施しました

去る12月17日(木)、本校第一体育館において、学力向上推進事業における講演会を3年生普通科(地学基礎履修者195名)を対象に実施しました。今年度の講演内容は「北海道の地震災害の実態と都市直下型地震・海溝型巨大地震の特徴と防災対策について」として、昨年度に引き続き北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センターの勝俣 啓先生をお招きしお話しいただきました。



第一線の専門家のお話が聞けると言うことで生徒も楽しみにしておりました。内容は、まず1992年北海道南西沖地震の津波被害状況や2003年十勝沖地震での長周期地震動による苫小牧石油備蓄基地の火災などの状況が写真とともに紹介されました。次に都市直下型地震(1995年兵庫県南部地震)と巨大海溝型地震(2011年東北地方太平洋沖地震)の際の揺れの様子が映像とともに比較され、その特徴の違いと、それにとまなう防災上の注意点が解説されました。さらに東北の震災時に浦安市で観測された液状化現象の様子も紹介され生徒達には強烈な印象が残ったようです。最後に地震の予知について、現在の技術では難しいということ、地震雲等には科学的根拠がないということも紹介され生徒達にとって印象深い講演会となりました。



以下 生徒の声 (一部抜粋)

- ・2つの種類の地震の映像を比べてみて、あんなに目に見えるほどに違いがあるとは思っていなかったのととても驚きました。普段なかなか地震の恐怖は意識せずに過ごしていましたが、就寝場所の注意など身近な話題もまぜて話してくださったことで、わかりやすく身近なこととして受け取ることができました。ありがとうございました。(3年男子)
- ・液状化現象のビデオで、道路が波打つように揺れることが実際に起こっているのだと実感した。大学で環境を学ぶ自分にとってすごく興味深い講演会になって、とても大事な知識になりました。(3年男子)
- ・よくネットで地震雲が話題になるのを見たことがありますが、地震とは関係ないことがわかり安心しました。ありがとうございました。(3年女子)